

# 1. 評価報告概要表

作成日 平成22年 3月28日

## 【評価実施概要】

事業所番号	1070700255
法人名	社会福祉法人 ポプラ会
事業所名	グループホームタンポポ
所在地	館林市田谷町1268 (電話) 0276-77-1800

評価機関名	特定非営利活動法人 群馬社会福祉評価機構
所在地	群馬県前橋市新前橋町13-12
訪問調査日	平成22年3月23日

## 【情報提供票より】(平成22年 3月 8日事業所記入)

### (1)組織概要

開設年月日	平成13年4月1日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	18 人	常勤 8人, 非常勤 10人, 常勤換算	12.6人

### (2)建物概要

建物構造	木造平屋 準耐火造り		
	1階建ての	1階 ~	1階部分

### (3)利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(月額)	45,000 円	その他の経費(月額)	水道光熱費 300円/日
敷金	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	無	有りの場合 償却の有無	無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
又は1日 1,380 円			

### (4)利用者の概要(3月8日現在)

利用者人数	18名	男性	5名	女性	13名
要介護1	4名	要介護2	5名		
要介護3	4名	要介護4	2名		
要介護5	3名	要支援2	0名		
年齢	平均 86.5歳	最低	75歳	最高	98歳

### (5)協力医療機関

協力医療機関名	医療法人六花会 館林記念病院
---------	----------------

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

ホームは、法人の他施設や畑に囲まれた静かな環境にある。広大な敷地には、木々や芝生や花壇やミニ畑があり、入居者の日常生活の憩いの場、楽しみや力の発揮の場となっている。また、入居者、家族、地域の人々が集うホームのイベント広場にもなっている。毎年度ホーム事業計画を作成し、理念・運営方針に沿った年間目標、処遇目標を掲げ、計画的に諸行事等を実施し、計画・実施・反省についての会議の繰り返しにより、更なるサービスの向上に繋げている。「食」を大切に、旬の食材を取り入れて美味しく食べやすい料理を提供し、十分な時間の中で職員も一緒に入居者と会話を楽しみながら食事をしている。また、日常生活に音楽療法、書道や手芸などのクラブ活動、季節的な行事などを行い、入居者を楽しませている。

## 【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>前回評価を受けて、自己評価は職員全員が各項目を記入し、職員会議で話し合い確認し、管理者がまとめ作成している。運営推進会議については、会議の運営について工夫し、栄養士や介護士などによるテーマを決めての話し合いを導入し、出席者から情報提供や活発な意見等が出され、処遇の中に反映させている。会議の内容は議事録に記され、開示等により共有されている。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>今回の自己評価は、職員全員が各項目に記入し、職員会議で話し合い確認し、管理者がまとめ作成している。</p>
重点項目②	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)</p> <p>2ヶ月に1回定期的に開催し、ホームの利用状況や活動状況について、資料や写真を載せた「タンポポ新聞」を添えて報告している。栄養士や介護士などによるテーマを決めての話し合いも行われている。また、インフルエンザ対策や避難訓練などホーム運営に関する意見等が積極的に出され、それらを反映した取り組みがされている。ホームと家族でやりとりされている「通信ノート」も家族からの提案によるものである。</p>
重点項目③	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)</p> <p>日頃の面会時等に、家族から意見や要望を聞いたりしている。また、処遇の向上を目指し、年に1回書面で家族から意見等を聴取している。家族から多くの意見等が出され、これらの意見等について職員で共有し話し合い、運営に反映させている。</p>
重点項目④	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>中学生や高校生のボランティアによる掃除や地域の人々による庭の手入れや畑の野菜栽培指導などが行われている。また、夏休みのガールスカウトなどの体験受入れや婦人会や民生委員などのホーム見学受入れも行っている。地域の小学校の運動会に入居者と共に見学に行ったり、地域の子供会の廃品回収に協力したり、ホームの「タンポポ祭」などの行事に地域の人々も参加し、地域に根ざした交流が盛んに行われている。</p>

## 2. 評価報告書

(  部分は重点項目です )

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1. 理念と共有					
	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	開設当初の5項目からなる理念を、平成20年に職員全員で話し合っって見直し、目指すことを念頭に置いた簡明瞭な2項目の理念に作り上げた。その理念は、『①家庭的な環境の中でその人らしく、笑顔のある生活をめざす、②入居者、家族、地域、タンポポに関わるすべての人達との絆を大切にする。』である。		
	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	事業所の掲示板に理念を掲げ、また、朝の申し送り時に、職員全員で理念を唱和するなどして、理念を共有している。家庭的な環境でその人らしい生活を念頭に、家族・地域との交流に心がけ、日々理念の実践に向けて取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい					
	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	中学生や高校生のボランティアによる掃除や小学校の運動会見学など地元の学校と行き来があり、交流が行われている。また、地域の人々による庭の手入れや野菜の栽培指導、婦人会・民生委員などのホーム見学、夏休みのガールスカウトの体験受入れ、地域の人々の「タンポポ祭り」の参加など様々な方の来訪の他、子供会の廃品回収への協力等、地域との交流が盛んに行われている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	施設長、管理者、職員全員が評価の意義を理解しており、前回課題となった自己評価については、職員全員が各項目に記入し、職員会議で話し合い確認をし、管理者がまとめ作成している。また、会議の議事録を開示し共有している。		
	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回定期的に開催しており、資料や「タンポポ新聞」を添え、ホームの利用状況・活動状況について報告している。また、栄養士や介護士による食中毒や感染症予防等テーマを決めた話し合いがされている。インフルエンザ対策や避難訓練など、ホーム運営に関する意見等が積極的に出され、それらを反映した取り組みがされている。ホームと家族とでやりとりされている「通信ノート」も家族からの提案によるものである。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	最近発生したグループホームの火災事故を受け、早速ホーム内で火災防止対策や火災対応マニュアルを点検及び確認し、市からの問い合わせなどに的確に対応すると共に、内容について市と情報共有するなど、市と連携しながら課題解決やサービス向上に努めている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	日頃の入居者の暮らしぶりや健康状態等について、面会時や電話で家族に報告している。希望により入居者の部屋の入口に置いた「通信ノート」は、家族とホームとのコミュニケーション手段の一つとなっている。また、「タンポポ新聞」を毎月1回発行し、家族へ郵送したり、掲示板に掲示している。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	日頃の面会時等に、家族から意見や要望を聞いたりしている。また、処遇の向上を目指し、年に1回書面で家族から意見等を聴取している。家族から出された多くの意見や「食事で野菜を多く摂らせてほしい」、「1日の生活を教えてほしい」といった個別の意見に対し、職員で話し合い運営に反映させて、処遇の向上を目指している。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	運営者は、入居者が馴染みの管理者や職員により支援を受けられるよう、職員の異動等は極力抑える努力をしている。異動等が生じた場合は、入居者との会話をできるだけ多くとり、コミュニケーションに努めている。また、法人内異動のため、度々遊びに来る機会を作る等、ダメージを防ぐよう努めている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内で2ヶ月に1回研修を行っており、内容は事故防止、栄養についてなど多岐にわたり、充実した内容になっている。また、認知症の基礎研修や実践研修などの外部研修にも積極的に参加しており、各職員のスキルアップが図れるようにしている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	法人内に3ヶ所のグループホームがあり、介護教室を開催したり、相談し合うなど、協力しながらレベルアップを図っている。また、東毛ブロック協議会で実施しているグループホーム職員交換研修に参加するなど、サービスの質を向上させる取り組みをしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	病院ソーシャルワーカー、在宅ケアマネージャーから紹介があるが、ケアハウスや老人保健施設、在宅など生活の場は様々なので、訪問して本人や家族から意向や要望等を聞いている。また、家族と共に何度か見学に来てもらい、「タンポポ」の雰囲気に慣れてから入居できるようにしている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	入居者から、古くから受け継がれている行事や郷土料理の作り方や食べ方、冷蔵庫がない時代の食品の保存方法などを教えてもらっている。また、お茶の時間の家庭的な雰囲気の中での会話や人生経験豊富な入居者から聞く昔の話など、共に過ごしながら、支え合う関係を築いている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居者や家族から話を聞いたりして、本人の思いや意向を把握し、その人らしく生活できるよう支援に努めている。また、発語のできない入居者に対しては、日頃の表情などで気づき、汲み取り、本人本位に検討し、その人らしく生活できるよう支援に努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	入居者・家族の希望、生活歴、身体状態などアセスメントした情報に基づき、各入居者の担当職員を中心に入居者の情報などを書き出し、職員会議で話し合い、介護計画を作成している。介護計画書には、本人・家族の希望、本人の状況、援助目標・内容など、詳細かつ明瞭に記入されており、家族も共有している。全職員がいつでも見られるように個人ファイルに入れてあり、情報を共有している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画の期間に応じた見直しの他、状態に変化が生じた場合は、再度アセスメントし、話し合いをして見直しを行い、現状に即した介護計画書を作成している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	家族と入居者との関わりを大切にし、家族と共に外出したり、外泊したり、希望により家族も入居者の居室に泊まったりできるようにしている。また、ホームは地域の要望に応え、公民館などで認知症に関する講演を行うなど認知症に対する理解を深める手助けをしている。訪問美容の利用や、週1回の音楽療法等を実施している。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	母体が医療機関であり、体調不良時には安心して受診でき、バスによる送迎があるため、月1回受診できる体制がある。母体の医療機関以外の病院を希望する入居者については、家族の対応が困難な時や急病の場合はホームが対応し、医師からの指示や薬について家族に報告している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化した場合、本人の気持ちを大切にし、家族の意向を医師に相談した上で、「タンポポ」での生活が可能かどうか話し合い決めている。出来る限りホームでケアする方針を職員全員で共有しているが、医療行為が必要になった時及び経口摂取ができなくなった時は病院に行くことを目安にしている、胃瘻造設となった時は入院ということを理解してもらっている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	一人ひとり個々人のプライバシーを尊重し、トイレの誘導などでは、その人に合わせた声かけや対応を行っている。業務上知り得た情報については秘密保持を徹底し、個人ファイルについては事務所で保管している。個人ファイルについては入居者の家族は自由に閲覧できるようにしている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	10時の喫茶、昼食、風呂又はカラオケ、書道や手芸など、1日のおおまかな流れはあるが、入居者のペースで自由に過ごせる支援をしている。好きなテレビ番組を見る方、入居者同士でコミュニケーションをとる方など、さまざまに過ごしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</b>					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	「食」を大切に、旬の食材を取り入れて美味しく食べやすい料理を提供し、十分な時間の中で職員も一緒に入居者と共に会話を楽しみながら食事をしている。入居者の「いただきます」のかけ声と唱和により食事がスタートし、フキの皮むきなどの下ごしらえ、片付けや下膳、だんごなどのおやつづくりを、入居者の力を活かして職員と入居者が共に行っている。また、年2～3回外食ツアーを実施している。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴は2ユニットが交互に入るようになっており、希望者は、常に入浴できる体制となっている。「変わり湯」はホームの特色あるサービスであり、ばら湯、りんご湯、菖蒲湯、ハーブ湯など多様な湯を入居者は楽しむことができ、好評である。夜間入りたい入居者がいる場合にも対応している。		
<b>(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	年間計画に基づいた、芋煮会やクリスマス会などの多彩な行事の他、書道や手芸などのクラブ活動も行っており、一人ひとりの力に応じて楽しめるよう支援している。また、ホーム内に喫茶を開き、本人の好みに応じた飲物を提供し、入居者の楽しみの一つになっている。洗濯物をたたんだり、入居者の力を活かした役割がで		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	広大な前庭は、季節の木々や草花を鑑賞する入居者の良い散歩場所であり、ガーデンランチも行われている。また、職員と一緒にホーム周辺を散歩したり、家族と協力し合いながら桜やつつじ・花菖蒲などの季節のお花見に出かけるなどの外出支援をしている。		
<b>(4) 安心と安全を支える支援</b>					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	取り付けであるセンサーで出たのが分かるようになっており、安全に配慮しつつ、鍵をかけないケアに取り組み、自由な暮らしの支援に努めている。見通しの悪い裏口の門のみ施錠しているが、家族に説明している。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年2回夜間想定も取り入れ、火災対応マニュアルに基づき、通報班・避難誘導班・消火班、点呼班を定め通報・初期消火・避難訓練を内容とする訓練を実施している。訓練には、地元消防協力隊20名が協力参加している。夜間はホーム夜勤者1名のほか、施設長、管理者に加え、待機体制及び法人の他施設との連絡応援体制も取られている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援  食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	きざみ食や糖尿病のカロリー制限など入居者の状況に応じた支援の他、管理栄養士が栄養バランスを考え食事を提供しており、食事や水分の摂取量を記録に残している。3食汁物を提供したり、喫茶タイムでのコーヒーや紅茶、お茶、牛乳などいろいろな種類の飲み物を揃えるなど、十分な水分摂取の確保に努めている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり  共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	天井が高くて天窓や中庭からの採光がある共用スペースには、ソファが適度に配置され、コーナースペースは畳敷きとなっており、家族との面会や入居者同士の語らいの場となっている。ホーム内には、入居者の作品があちこちに飾られ、職員による活け花等もあり、和やかな雰囲気と季節感を出している。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮  居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には、ベットやダンス、鏡台などの馴染みの家具やテレビなどが配置され、入居者の手作り作品や家族の写真、手紙などが飾られ、居心地良い空間になっている。「入居者宅」というコンセプトのもと、家族が自由に訪れたり、時には、家族が気軽に宿泊したりできるよう支援している。		